

平成14年度国立学校等技術専門官研修参加報告

森田 千明*

本研修の目的は、国立学校等の技術専門官としての必要な行政的見識の涵養を深め、その職務に必要な専門的知識及び技術を習得するとともに、技術の継承及び保存に関し、指導的役割を果たせるようその資質の向上を図ることにある。また、当技術部としては、既に第1回（平成11年度）の本研修に、丹羽 文夫 前技術専門官が参加されている。

今年度は、文部科学省と東京工業大学の主催により、国立大学59名、工業高等専門学校5名、研究機構など7名の全参加者71名（本学から3名）で、8月21日（水）から8月23日（金）の3日間、東京工業大学、百年記念館を会場として行われた。

研修の概要は、以下の通りである。

講義

「大学行政上の諸問題」 文部科学省 高等教育局 大学課長 合田 隆史

「学術行政上の諸問題」 文部科学省 科学技術・学術政策局 企画管 舟橋 徹

「職場の安全管理」 文部科学省 大臣官房人事課 福利厚生室 専門官 川崎 幸一

「人事管理上の諸問題」 文部科学省 大臣官房人事課 審査班主査 出澤 忠

「職場の健康管理」 東京ストレスマネジメント 今井 功

特別講演：「東京工業大学におけるPRTTR制度への対応について」

東京工業大学 教授 玉浦 裕

実習等

ポスターセッション

施設見学 原子炉工学研究所、総合分析支援センター

フリーディスカッション

懇談会

上記の概要から明らかなように、実習 ポスターセッション（3時間半）、フリーディスカッション（2時間半）は、本研修の一つの特色である。そこで、ポスターセッション、フリーディスカッションについては、許された紙面内で出来るだけ詳しく報告する。

第1日目の午前は、開講式、オリエンテーションの後、「大学行政上の諸問題」の講義があり、大学審議会及び中央教育審議会の答申内容などの説明があった。午後から「学術行政上の諸問題」の講義があり、学術と科学技術に係わる法令上の規定の変遷、その定義と特性、科学技術・学術行政の組織形態などの説明があった。「職場の安全管理」の講義では、職場の安全管理、最近の災害の発生状況、人事院規則10-4（職員の健康及び安全保持）と労働安全衛生法などの説明があった。「人事管理上の諸問題」の講義では、サービス制度、懲戒処分、セクシャル・ハラスメント、国家公務員倫理法、国立学校教官等の兼業などの説明があった。講義全般において、熱心な質疑応答が行われた。講義の後、各人が翌日のポスターセッションの準備を行い、その後、大学食堂で開催された懇談会に参集した。懇談会では、独立行政法人化を背景にした技術部の現状などが話題の中心となり、熱心な情報交換が行われた。

* 分析・物質技術系

第 2 日目の午前は、「職場の健康管理」の講義があり、ストレス解消の実技とその前後にストレスチェックが行われ、実技の効果を体験することができた。講義の後、各ポスターセッションの下見があり、午後からポスターセッションが行われた。

ポスターセッション

その目的は、各技術専門官が有する各分野の専門知識と技術について、説明、発表を行い、参加者との自由な意見、情報交換を行う。また、その意見、情報交換を通して、技術の継承、保持に関する指導的役割を果たすために必要な要素を見出すことにある。

準備にあたっては、A4 判、枚数 4 枚以内、偶数とするポスターセッション予稿集の原稿を作成（締め切り 7/26）することになり、それが事実上の本研修の始まりとなった。更に、発表内容をパネルサイズ 90 cm × 90 cm まとめ、研修初日にパネルに貼って準備が完了した。

また、実施にあたっては、各技術分野毎に 3 グループに分け、3 交代、1 人 70 分の持ち時間で説明、発表を行う。発表者以外の者あるいは東京工業大学の関係者は、各人の技術分野にかかわらず、活発な意見、情報交換を行う。技術分野の区分（発表件数）は、機械（17）、電気・電子（12）、情報処理（5）、物理・化学（11）、生物・生命科学（11）、土木・建築（9）、その他（6）であり、250 頁のポスターセッション予稿集として編纂された。

私は、「超高圧電子顕微鏡用電界放出電子銃の技術開発」について、説明、発表を行ったが、持ち時間を余すことなく質疑応答が進んだ。また、会場では各ポスター内容の出来、不出来あるいは技術の継承、保持を含めた活気のある意見交換が展開された。

第 3 日目の午前は、施設見学があり、2 班に分かれて原子炉工学研究所（ペレット型加速器、タンデム型加速器、ヴァンデグラフ型加速器）、総合分析支援センター（電子顕微鏡施設、X線分析室、元素分析室）を見学した。午後から「東京工業大学における P R T R 制度への対応について」の特別講演があり、管理・実施体制、化学系廃棄物の安全管理、外部管理会社への業務委託などの説明があった。その後、フリーディスカッションが行われた。

フリーディスカッション

その議題は、技術専門官の立場としてのリーダーシップをいかに発揮していくか、技術を伝承・継承するために今後どのよなことを考えていくべきかである。実施にあたっては、5 班に分かれて、各班毎に司会、進行の担当者が指名された。私の班のメンバー構成は、東北、山形、群馬、東京、福井、京都、大阪、岡山、愛媛、熊本大学、八戸工業高等専門学校であり、司会者の適切な進行により、議論が進められた。その前半は、技術部組織と技術支援業務の現状、技術専門官の役割などについて、1 人 7 分程度の持ち時間で実状を挙げた詳しい説明があり、いずれの説明にも活発な質問が続出し、お互いに重要かつ難しい課題であることを痛感した。特に、技術部の組織化については、予め、その関連資料を準備、持参したことが幸いしたが、当技術部の組織化が先行していることから、今後の展開に大きな責務があることを肌で感じた。

フリーディスカッションの後、閉講式が行われ、お互いに今後の継続した交流を確認しあいながら、それぞれ帰路に就いた。

暑さが厳しい時期のわりには、3 日間通じて暑さの和らぎがあり、研修期間内に各国立学校等からの参加者と多くの意見、情報あるいは友人を得ることができ、大変有益な研修であった。研修の講義をされた講師の方々、文部科学省、東京工業大学の担当者の方々に感謝致します。